



平成 26 年 6 月 5 日

各 位

東 京 都 千 代 田 区 麴 町 三 丁 目 2 番 4 号
会 社 名 株式会社スリー・ディー・マトリックス
代 表 者 名 代表取締役社長 高村 健太郎
(コード番号：7777)
問 合 せ 先 取 締 役 新 井 友 行
電 話 番 号 03 (3511)3440

**当社ペプチド技術を用いた「トランスフェクション剤（細胞への遺伝子導入剤）」
に関する特許取得のお知らせ**

当社が学校法人日本医科大学と共同で出願しておりました界面活性剤様ペプチド技術について、トランスフェクション剤（細胞への遺伝子導入剤）としての適用に関して欧州における特許が成立いたしましたので、お知らせいたします。

- 【発明の名称】 トランスフェクション剤
【特許番号】 第 2,322,608 号
【特許権者】 学校法人 日本医科大学、株式会社スリー・ディー・マトリックス

本特許は、界面活性剤様ペプチドを細胞に核酸 (=遺伝子) を導入するトランスフェクション剤として利用し、細胞の遺伝子発現量を制御する方法とその応用に関する特許で、腫瘍細胞に対する遺伝子発現制御への有用性が示されております。当該分野に関して、吉田大蔵 准教授（日本医科大学病院）が研究成果を論文や学会で発表しております。また、当社は独立行政法人国立がん研究センターと共同で、当該技術の臨床応用へ向けた医師主導治験の準備を進めております。

基礎研究における細胞への遺伝子導入では、カチオン性ポリマーやカチオン性リポソーム等のカチオン性のトランスフェクション剤が広く利用されていますが、細胞に対する毒性が知られており、細胞毒性が低く且つ遺伝子導入効率がよいトランスフェクション剤について、現在も多くの研究が進められております。本特許に示された界面活性剤様ペプチドのトランスフェクション剤としての利用は、細胞毒性が低い細胞への遺伝子導入方法の一つになります。

現在、様々な核酸移送担体の候補が遺伝子治療のために研究されていますが、核酸移送担体として界面活性剤様ペプチドはその毒性の低さから、臨床使用可能な担体の候補の一つになります。

当社は今後も本特許を活用して研究開発を進め、有効な医療製品の開発を進め企業価値の拡大を図ってまいります。

なお、現段階においては、本件による本年度以降の業績予想への影響はありません。

以 上